第 25 回企画委員会議事要旨

日時　2021 年 11 月 11 日 18:30～20：30
場所　ズームにて開催
出席者　駒村委員長、朝日委員、有村委員、池田委員、石﨑委員、奥田委員、久保寺委員、
西岡委員、岡崎全体委員会委員、山田全体委員会委員
（上記以外の出席者）日本財団、ダイバーシティ就労支援機構

１．日本財団 WORK ! DIVERSITY プロジェクトに関する基本的考え方等について
（事務局説明）（資料 1 参照）
○日本財団 WORK ! DIVERSITY プロジェクトの目的を改めて整理した。
○前回の議論を踏まえ、基本的用語の使い方を整理した。
○企画委員会、各部会の役割分担の確認をした。
○プロジェクトの実現目標として、「ダイバーシティ就労支援活動の根幹となる新制度および制度改善の実現」と「ダイバーシティ就労支援ネットワークの構築」を挙げた。
○実現目標を実現する手段として、①モデル事業の実施、②ダイバーシティ就労支援の必要性に関し関係団体の合意形成、③その他のサポート手段の実施、を挙げた。

２．広報体制の強化について（事務局説明）
○ 日本財団 WORK ! DIVERSITY プロジェクトへの認知度を高め、今後の共生社会実現のための WORK ! DIVERSITY ネットワークへの参加を促すため、12 月以降、有識者による「公開連続講演会」を考えている。
○　WORK ! DIVERSITY プロジェクトを自治体関係者、就労支援機関関係者等多くの方々にわかりやすく周知するため、説明小冊子の発行を検討している。

３．意見交換
○ 広報は、WORK ! DIVERSITY プロジェクトを全く知らない学生にどう伝えるか、の視点で考えるといいかもしれない。
○ 働きづらさの観点で見ても多様な時代になってきた。今までのように症状別、障害別等で細かく分けていくことは多様化の時代になじまない。垣根を越えた新しい就労支援、ダイバーシティ・インクルージョンでみんなが包括されるようになることを目指すべきだ。
○ 何らかの制度で対応することも必要だが、インフォーマルなところで相当吸収できていくような社会をつくっていくことが重要。フォーマルとインフォーマルの組合せ、何でも来いというのがダイバーシティ。
○ 連続的にいろいろなものが使える、とすべし。

○ 究極の目標は誰でも利用できる、包括される社会を目指すことにして、中間過程で障害者総合支援法の就労支援 4 事業の障害者以外への適用拡大等の実現を図る、という整理がいいのではないか。